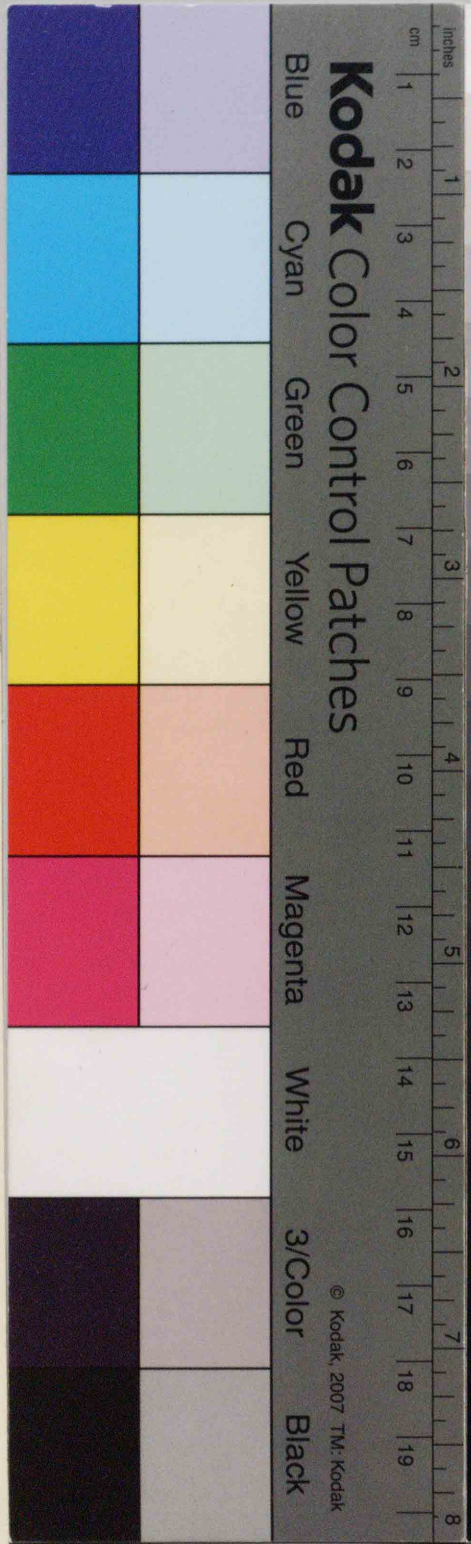


40958

教科書文庫

4
760
31-1932
01304 49421



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

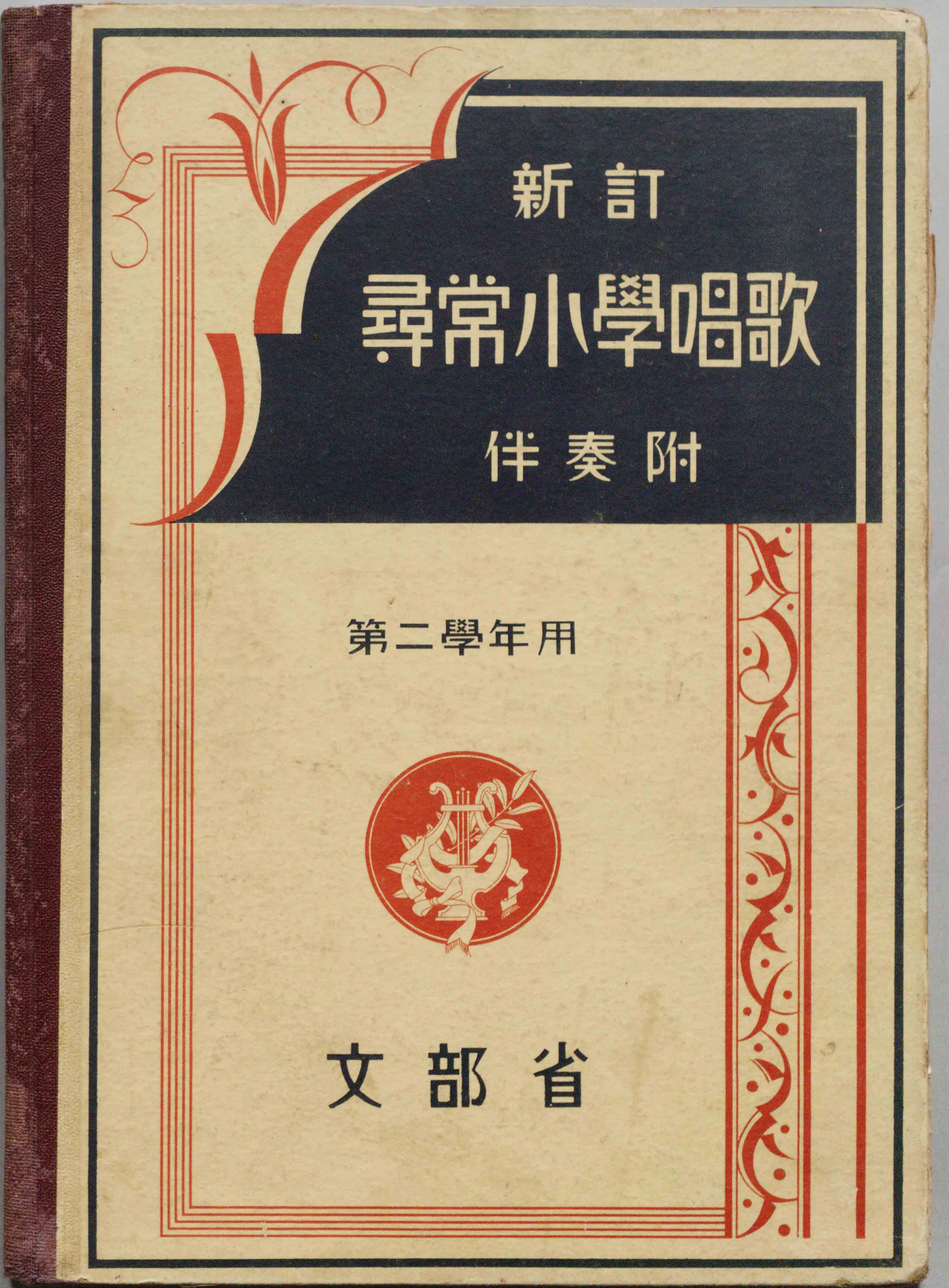
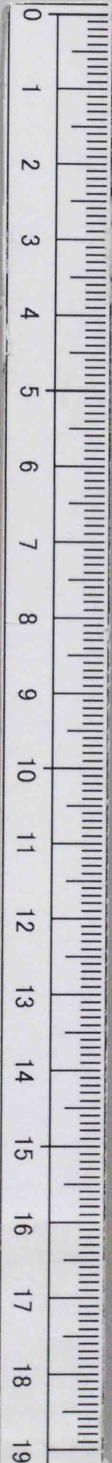
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



新訂

尋常小學唱歌

伴奏附

第二學年用



文部省

中央図書館

和声研究 巻5 五

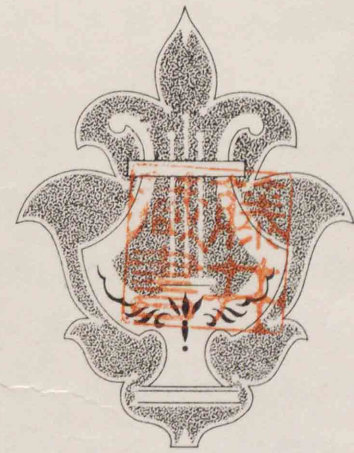
広島大学図書

0130449421



新訂
尋常小學唱歌

伴奏附
第二學年用



文部省

緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ每卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ^{尋常}小學國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採リ、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 七、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ。

昭和七年四月

文 部 省

目 次

一	櫻	2
二	ラヂオ	4
三	二宮金次郎	6
四	雲 雀	8
五	折 紙	10
六	小 馬	14
七	田 植	16
八	竹の子	18
九	雨	20
一〇	金 魚	22
一一	蟬	24
一二	蛙と蜘蛛	26
一三	こだま	28
一四	浦島太郎	30
一五	ポプラ	32
一六	かけっこ	36
一七	案山子	38
一八	が ん	40
一九	富士山	42
二〇	影法師	44
二一	紅 葉	46
二二	時計の歌	48
二三	うちの子ねこ	50
二四	雪	52
二五	梅に鶯	54
二六	母の心	56
二七	那須餘一	60

櫻

♩ = 112

櫻

一 カ ス ミ ニ ツ ツ ク ハ ハ ナ ノ ク モ
ニ む か ふ の や ま の は や ま ざ く ら

ノ ヤ マ ニ ツ モ ル ハ ハ ナ ノ ユ キ
こ ち ら の を か の は や ハ ざ く ら

ハ ル ノ シ グ ツ ハ ウ ツ ク シ ヤ
や - ハ も ひ と ハ も う つ く し や

二

櫻

ド ナ ラ ム イ テ モ ハ ナ バ カ リ
は な は こ の は な さ く ら ば な

一、櫻

一、霞につづくは花の雲

野山につもるは花の雪

春の四月はうつくしや、

どちら向いても花ばかり。

二、向ふの山のは山櫻

こちらの岡のは八重櫻

八重も一重もうつくしや、

花はこの花、
櫻花。

三

ラヂオ

♩ = 78

ラヂオ

一 ア サノ ラヂオ が マウ シ マ ス
ニ ば ん の ら ぢ お が まう し ま す

ミ ナ サン オ ハ ヤウ ゴ ザ イ マ ス
み な さん お ま ち ど ほ ー て し た

サア ハ ジ マツ タ ラヂオノ タイ サウ
さあ は じ ま つ た こ ど も の じ か ん

ラヂオ

ミ ン ナ デ ヤ リ マ セウ ゲ ン キ ニ ヤ リ マ セウ
み ん な で き き ま せう た の し く き き ま せう

Ⅰ Ⅴ Ⅲ Ⅰ

二、ラヂオ

一、朝のラヂオが申します、

皆さんお早うございます。

さあ始つた、ラヂオの體操。

みんなてやりませう、

元氣にやりませう。

二、晩のラヂオが申します、

皆さんお待ちどほでした。

さあ始つた、子どもの時間。

みんなて聞きませう、

楽しく聞きませう。

二宮金次郎

♩ = 100

二宮金次郎

一 シ バ カ リ ナ ハ ナ ヒ ワ ラ チ ヲ ツ ク リ
 二 ほ ね み を を し ま す し ご と を は げ み
 三 カ ゲ フ ー ー ダ イ ジ ニ ツ ヒ エ ヲ ハ フ キ

オ ー ヤ ノ テ ヲ ス ケ オ ト ト ヲ セ ソ シ
 よ ー な ベ す ま し て て な ら ひ と く し
 ス コ シ ノ モ ノ ヲ モ ソ マ ツ ニ セ ズ ニ

キ ャ ウ ー タ イ ナ カ ヨ ク カ ウ ー カ ウ ー ツ ク ス
 セ は し い な か に も た ゆ ま す ま な ぶ
 ツ ヒ ニ ハ ミ ヲ タ テ ヒ ト ヲ モ ス ク フ

六

二宮金次郎

テ て ホ ほ ン ン ハ は ニ に ノ の ミ み ヤ や
 テ ホ ン ハ ニ ノ ミ ヤ

キ キ ン ン ジ ジ ラ ウ ー ー ー ー
 キ ン ジ ラ ウ ー ー ー ー

三、二宮金次郎

- 一、柴刈り、繩なひ、草鞋をつくり、親の手を助け、弟を世話し、兄弟仲よく孝行つくす、手本は二宮金次郎。
- 二、骨身を惜しまず仕事をはげみ、夜なべ濟まして手習讀書、せはしい中にも撓まず學ぶ手本は二宮金次郎。
- 三、家業大事に、費をはぶき、少しの物をも粗末にせず、遂には身を立、人をもすくふ、手本は二宮金次郎。

七

雲 雀

♩ = 132

雲
雀

mp

ービ イビ イビ イト サへ ヅル ヒバリ
ニビ いび いび いと さへ づる ひばり

mp

サへ ヅリ ナガラ ド コマ デ ア カ ル
さへ づり やんで ど ころ へ おちた

雲
雀

mf

コ エ ハ キ コ エ テ ミ エ ナ イ ヒ バ リ
す ー が た か く れ て み え な い ひ ば り

四、雲 雀

- 一、 びいびいびいと囀る雲雀、
囀りながら何處まであがる、
高い高い雲の上か、
聲は聞えて見えない雲雀。
- 二、 びいびいびいと囀る雲雀、
囀りやんで何處らへ落ちた、
青い青い麥の中か、
姿かくれて見えない雲雀。

折 紙

♩ = 72

折
紙

Musical notation for the first system on page 10. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff (treble and bass clefs). The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The tempo is marked as ♩ = 72. The piano part includes dynamic markings of *mp* and *p*. The system ends with a fermata and a double bar line.

Musical notation for the second system on page 10. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The piano part includes a dynamic marking of *p*. The system ends with a fermata and a double bar line.

Musical notation for the third system on page 10. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The piano part includes dynamic markings of *mf*, *mp*, and *p*. The system ends with a fermata and a double bar line.

10

折
紙

Musical notation for the first system on page 11. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The piano part includes a dynamic marking of *p*. The system ends with a fermata and a double bar line.

Musical notation for the second system on page 11. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The piano part includes a dynamic marking of *mf*. The system ends with a fermata and a double bar line.

Musical notation for the third system on page 11. It features a vocal line in treble clef and piano accompaniment in grand staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 2/4. The piano part includes dynamic markings of *f* and *p*. The system ends with a fermata and a double bar line.

11

五折紙

一、白い紙で何折らう、

私の好きな鶴折らう。

そよそよ、春風吹いたなら、

高く大きく

羽ばたいて、

つうつと、空まで飛んで行け。

二、赤い紙で何折らう、

私の好きな船折らう。

ゆらゆら、大波寄せたなら、

高く真赤な

帆を張つて、

すいすい、島まで走り出せ。

小 馬

♩ = 112

小
馬

First system of musical notation for '小馬'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The piano part has a dynamic marking of *f* and *mf*. There are some performance markings like 'Ped.' and a star symbol.

— ハイ シイ ハイ シイ アユメヨ コウマ
ニばか ばか ばか ばか はしれよ こうま

Second system of musical notation for '小馬', including vocal line and piano accompaniment with a dynamic marking of *mp*.

ヤマデモサカデモズンズン アユメ
けれどもいそいでつまづくまいぞ

Third system of musical notation for '小馬', including vocal line and piano accompaniment with a dynamic marking of *mp*.

一四

小
馬

First system of musical notation for '六小馬'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment with a dynamic marking of *mf*.

アユメヨ アユメヨ アシオトタカク
はしれよ はしれよ ころはぬやうーに

Second system of musical notation for '六小馬', including vocal line and piano accompaniment with a dynamic marking of *mf*.

六小馬

一、はいしい、はいしい、
あゆめよ、小馬。
山でも、坂でも、
ずんずん歩め。
お前が進めばわたしも進む。
歩めよ、歩めよ、
足音たかく。

二、
はかばか、はかばか、
走れよ、小馬。
けれども急いで
つまづくまいぞ。
お前が轉べばわたしも轉ぶ。
走れよ、走れよ、
轉ばぬやうに。

一五

田 植

♩ = 120

田 植

一 シーロ イ ス ゲカ サ ア カダ ス キ
ニ う 一 ぶ る て さ き も あ し ど り も

ソ ー ロ ヒ ス カク ノ サ フ ト メ ガ
ふ ー し も そ ろ へ て さ を と め が

ウ ー タ ヲ タ ウ エ ノ ウ タ キ ケ バ
う ー た ふ た う ぶ の う た き け は

田 植

ソ ロ ウ タ ソ ロ タ ヨ サ フ ト メ ガ ソ ロ タ
こ と し は ほ う ね ん ほ に ほ か ー さ い て

イ ー ネ ノ デ ホ ヨ リ ナ ホ ソ ロ タ
み ー ち の こ ぐ さ も こ め が な る

七田 植

一、 白い菅笠、赤だすき、
揃ひ姿の早少女が
歌ふ田植の歌きけば、
揃うた、揃たよ、早少女が揃た、
稲の出穂よりなほ揃た。

二、 植ゑる手先も、足取も、
節も揃へて早少女が
歌ふ田植の歌きけば、
今年は豊年、穂に穂がさいて、
路の小草も米がなる。

竹の子

♩ = 84

竹の子

一 クライ オウチノ トヲアケテ
ニひろい このよか うれしいか

コツ ソリ オモテヲ ミルヤウーニ
やつ ぱり ひか げが こひしいか

ムツクリコ ムツクリコト ツチオシ アゲテ
むつくりこ むつくりこと つちおし あげて

一八

竹の子

タケノコ イツボン アタマヲ ダシタ
たけのこ ぐんぐん おほきく なつた

八、竹の子

一、くらいおうちの戸をあけて、
こつそりおもてを見るやうに、
むつくりこ、むつくりこと
土おしあげて、
竹の子一本頭を出した。
二、廣いこの世がうれしいか、
やつぱり日影がこひしいか、
むつくりこ、むつくりこと
土おしあげて、
竹の子ぐんぐん大きくなつた。

一九

雨

♩ = 126

雨

一 フレフレアメヨ ミヤコノアメヨ
二 ふれふれあめよ ゐなかのあめよ

ウ マ ヤ ク ル マ ノ ツウ ー ラ イ タ エ ヌ
な す や き う り の は な さ き そ ろ ふ

マ ー チ ノ ホ コ リ ノ シ ツ マ ル ホ ド ニ
は た け の つ ー ち の う る ほ ふ ほ ど に

雨

ア メ ヨ フ レ フ レ ホ ド ヨ ク フ レ
あ め よ ふ れ ふ れ ほ ど よ く ふ れ

九、雨

一、降れ降れ雨よ、都の雨よ。
馬や車の往來絶えぬ
町の埃のしづまる程に

二、降れ降れ雨よ、田舎の雨よ。
茄子や胡瓜の花咲き揃ふ
島の土のうるほふ程に、
雨よ降れ降れ、程よく降れ。

金 魚

♩ = 69

金 魚

一 ア カ イ オ ホ キ ナ ヒ レ ユ ラ ユ ラ ト
ニ な が い み ご と な を を ふ り な が ら

キ ン キ ヨ ハ オ ヨ グ シ ヅ カ ニ オ ヨ グ
き ん ぎ よ は う か ぶ つ づ い て う か ぶ

ミ ツ ト リ カ ヘ テ キ レ イ ニ ナ ツ タ ガ ラ ス ノ
み な げ ん き よ く わ た し の や つ た ふ を た べ

ナ カ デ タ ノ シ サ ウ ニ ウ レ シ サ ウ ニ
よ う 一 と う れ し さ う に た の し さ う に

一〇、金 魚

一、赤い大きな鯉ゆらゆらと
金魚は泳ぐ、静かに泳ぐ、

水とりかへて

きれいになつたガラスの中で、
たのしさに、うれしさに。

二、長い見事な尾を振りながら

金魚は浮かぶ、つづいて浮かぶ、

皆元氣よく

私のやつた駄をたべようと、
うれしさに、たのしさに。

蟬

♩ = 96

蟬

一 カミナリーカ トホクナール
二 ゆふーたーちーか ひとしきーり

フクトモナシーニカセガフーク
みどりのはからつゆかちーる

キトイフーキニハセミガナク
すすしいーこゑでせみかなく

二四

蟬

一、かみなりが
遠く鳴る。
吹くともなしに、
風が吹く。

二、夕立が
木といふ木には、
蟬が鳴く。

ひとしきり。
みどりの葉から、
蟬が鳴く。
涼しい聲で、
蟬が鳴く。

二五

蛙と蜘蛛

♩ = 80

蛙と蜘蛛

一 シーダレ ヤナギニト ビツク カヘル
ニか せふく こえ たにす をはる こぐも

ト ンデ ハ オ チ オ チ テ ハ ト ビ
は つて は き れ き れて は は り

オ チ テ モ オ チ テ モ マ タ ト フ ホ ト ニ
き れ て も き れ て も ま た は る ほ ど に

蛙と蜘蛛

ト ウ ト ウ ヤ ナ キ ニ ト ビ ツ イ タ
と う と う こ え た に す を は つ た

一三、蛙と蜘蛛

- 一、しだれ柳（やなぎ）に飛びつく蛙（かえる）、
飛んでは落ち、
落ちては飛び、
落ちては落ち、
落ちては落ち、
また飛ぶほどに
とうとう柳（やなぎ）に飛びついた。
- 二、風吹く小枝（こえだ）に巣を張る小蜘蛛（こぐも）、
張つてはきれ、
きれでは張り、
きれでは張り、
きれでも、きれでも、
また張るほどに、
とうとう小枝（こえだ）に巣を張つた。

こ た ま

♩ = 104

こ
だ
ま

一 オウ イ ト ヨ ベ バ オウ イ ト コ タ ー へ
二 や あ い と よ べ ば や あ い と か へ し

ダ レ タ ト イ へ バ ダ レ タ ト カ へ ー ス
な ん た と い へ ば な ん た と ま ね ー る

ム カ フ ノ モ ー リ ニ ス ム モ ノ ー ハ
む か ふ の や ま に す む も の ー は

ヒ ト カ キ ツ ネ カ キ ノ セ イ カ
ま ほ ふ ー つ か ひ か せ ん に ん か

こ
だ
ま

一、おういと呼べばおういと答へ、
誰だといへば誰だと返す。
むかふの森にすむものは
人か、狐か、木の精か。
二、やあいと呼べばやあいと返し、
何だといへば何だとまねる。
むかふの山にすむものは
魔法つかひか、仙人か。

一三、こ た ま

浦島太郎

浦島太郎

♩ = 100

一ムカシムカシウラシマハニ
二三おとひめカマキリノテ
四かへつてソビニは
五ココロホソサニ

輕快に
mf

タメニツレテ
スーヒカヒメ
ケイトマゴイ
タヤマトク
カヒゴイ
メハシキ

リュウダカミナ
グダヘチカ
ウメハカ
一ブルに
ジャウト
一しチュキ
ヘクツア
キオタヒシ

三〇

浦島太郎

エツミカタ
一きヤチ
ニヒゲマ
モのニモチ
カたモシタ
ケつたらウ
ナもツナ
イ一たいハ
ウツタもオ
ツメマのデ
クのテはイ
シウバカサ
サチコリン

f

一四、浦島太郎

- 一、昔昔、浦島は
助けた龜に連れられて、龍宮城へ来て見れば、
繪にもかけない美しさ。
- 二、乙姫様の御馳走に、鯛や比目魚の舞踊、
ただ珍しくおもしろく、
月日のたつも夢の中。
- 三、遊にあきて気がついて、
お暇乞もそこそこに、
土産に貰った玉手箱、
歸る途中の楽しみは、
- 四、歸つて見れば、こは如何に、
元居た家も村も無く、
路に行きあふ人人は、
顔も知らない者ばかり。
- 五、心細さに蓋とれば、
あけて悔しき玉手箱
中からばつと白煙、
たちまち太郎はお爺さん。

三一

ポ プ ラ

伴奏 重音型 (楽曲の内容から)

♩ = 126

大木が天の響きを表現するに重音型を採る

ポ
プ
ラ

Musical notation for the first system on page 132, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking of *mp*.

Musical notation for the second system on page 132, featuring a vocal line and piano accompaniment.

Musical notation for the third system on page 132, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking of *mf*.

三三

ポ
プ
ラ

Musical notation for the first system on page 133, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking of *mp*.

Musical notation for the second system on page 133, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking of *mp*.

Musical notation for the third system on page 133, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking of *mf*.

三三

一五、ポ
プ
ラ

一、高たかい空そらに、つつつ立たつポ
プ
ラ、

夕ゆふ日ひにもえて、

枝えだ枝えだの

金きんの木きの葉はが

き
ら
き
ら
と、

嬉うれしさうにふるへてる。

二、暗くらい夜よに、つつつ立たつポ
プ
ラ、

天てんまでとどく

黒くろい影かげ

黒くろい梢しんぼが

ひ
そ
ひ
そ
と、

お星ほしさまと話はなしてる。

かけっこ

♩=120

かけっこ

一 ア ツマレ ア ツマレ カケツ コ
ニ こんどは かへりの かけつ こ

ダ メ ア テ ハ ム カ フ ノ マ ツ ノ キ タ
だ い ま で た と こ ま で も ど る の だ

三六

かけっこ

ヨウ イガ ヨケレバ イチニ サン マケルナ
よう いが よければ いちに さん まけるな

マケルナ アカカテ シロカテ
まけるなしろかてあかかて

一六、かけっこ

一、集れ、集れ、かけつこだ。

目あては向ふの松の木だ。

用意がよければ、一、二、三、

まけるな、まけるな、

赤勝て、白勝て。

二、今度はかへりのかけつこだ。

今出たとこまで戻るのだ。

用意がよければ、一、二、三、

まけるな、まけるな、

白勝て、赤勝て。

三七

案山子

♩ = 112

案山子

一 ヤ マダ ノ ナ - カ ノ イツボン アシノ カカシ
ニ ヤ まだ の な - か の いつほん あしの かかし

テ ン キ ノ ヨ イ ノ ニ ミ ノ カ サ ツ ケ テ
ゆ み や で お ど し て り き ん で を れ ど

ア サ カ ラ バ ン マ デ タ タ タ チ ド ホ シ
や ま で は か ら す が か あ か と わ ら ふ

案山子

ア - ル ケ ナ イ ノ カ ヤ マ ダ ノ カ カ シ
み - み が な い の か や ま だ の か か し

一七、案山子

一、山田の中の一木足の案山子、
 天氣のよいのに蓑笠着けて、
 朝から晩までただ立ちどほし。
 歩けないのか、山田の案山子。
 二、山田の中の一木足の案山子、
 弓矢で威して力んで居れど、
 山では烏がかあかと笑ふ。
 耳が無いのか、山田の案山子。

か ん

♩ = 112

か ん

一 ガンガク ル カンカク ル トンデ ク ル
 二 そらをとぶ くもをとぶ ないて とぶ
 三 ガンガイ ク ガンガイ ク トンデ イ ク

mp

オホ キナガ ンハ サ キ ニ チヒ サナガ ンハ ア ト ニ
 さ きのか んも ない た あ との が んも ない た
 チヒ サナガ ンハ サ キ ニ オホ キナガ ンハ ア ト ニ

mf

ガ ンガク ル ガ ンガク ル ト ンデ ク ル
 そらをとぶ くもをとぶ な いて とぶ
 ガ ンガイ ク ガ ンガイ ク ト ンデ イ ク

mp

か ん

一八、 かん

- 一、 雁が来る、 雁が来る、 飛んで来る。
- 大きな雁はさきに、 小さな雁はあとに。
- 雁が来る、 雁が来る、 飛んで来る。
- 二、 空を飛ぶ、 雲を飛ぶ、 鳴いて飛ぶ。
- さきの雁も鳴いた、 あとの雁も鳴いた。
- 空を飛ぶ、 雲を飛ぶ、 鳴いて飛ぶ。
- 三、 雁が行く、 雁が行く、 飛んで行く。
- 小さな雁はさきに、 大きな雁はあとに。
- 雁が行く、 雁が行く、 飛んで行く。

富士山

♩=96

富士山

一 ア タ マ ヲ ク モーノ ヲ ヘ ニ ダーシ
ニ あ を ぞ ら た かーく そ び え たーち

シ ハ ウー ノ ヤー マ ヲ ミ オ ロー シー テ
か ら た に ゆー き の き も のー きー て

四二

富士山

カ ミ ナ リ サー マー ヲ シ タ ニ キ ク
か す み の すーそーを と ほ く ひ く

フ ジ ハ ニ ツ ポ ン イ チ ノ ヤ マ
ふ じ は に つ ぼ ん い ち の や ま

一九、富士山

四三

一、あたまを雲の上に出し、
四方の山を見おろして、
かみなりさまを下に聞く、
富士は日本一の山。

二、青空高くそびえ立ち、
からだに雪の着物着て、
霞のすそを遠く曳く、
富士は日本一の山。

影法師

伊藤有雄作曲 万敬和歌

♩ = 80

影法師

一 ピヤノノオトニ アシナミソロヘ
ニ なかよし どうーし てとてをひいて

ミン ナデナカヨク イウ キヲ スレバ
ゆふ ひのこみちをかへろとすれば

マツ クロクロノ カゲボフーシ
な がい な がい か げ ぼ ぶ ー し

四四

ヤツ バリ ソロツ テ ヲドツ テ ル
やつ ばり ならん で ついて くる

影法師

二〇、影法師

一、ピヤノの音に足並そろへ、
みんなて仲よく遊戯をすれば、
まつくるくるのかげぼふし、
やつぱり揃つてをどつてる。

二、仲よし同志手と手をひいて、
夕日のこみちを歸るとすれば、
ながいながいかけぼふし、
やつぱり並んでついてくる。

四五

紅葉

♩ = 92

紅
葉

— ア キノユフ — ヒ ニ テ ル—ヤ マ モ ミ—チ
ニ た にのな が れ に ち り—う く も み—ち

コ イモウ ス イ モ カ ズ—ア ル ナ カ ニ
な みにゆ ら れ て は な—れ て よ つ て

マ ツヲイ ロ ド ル カ ヘ—テ ヤ—ツ タ ハ
あ かやき い ろ の い ろ—さ ま—ざ ま に

紅
葉

ヤ マノフ モ ト ノ ス ソ—モ ヤウ —
み づのう へ に も お る—に し き

二、紅葉

一、秋の夕日に照る山紅葉

濃いも薄いも数ある中に、

松をいろどる楓や葛は、

山のふもとの裾模様。

二、溪の流に散り浮く紅葉

波にゆられて離れて寄つて、

赤や黄色の色さまざまに、

水の上にも織る錦。

時計の歌

時計の歌

♩ = 92

一 ト ケ イ ハ ア サ カ ラ カ ツ チ ン カ ツ チ ン
 ニ と け い は ば ん で も か つ ち ん か つ ち ん

オ ン ナ ジ ヒ ビ キ デ ウ ゴ イ テ フ レ ド モ
 わ れ ら が ね ど こ で や す ん で を る ま も

チ ッ ト モ オ ン ナ ジ ト コ ロ ヲ サ サ ズ ニ
 ち つ と も や す ま ず い き を も つ が ず に

時計の歌

バ ン マ デ カ ウ シ テ カ ツ チ ン カ ツ チ ン
 あ さ ま で か う し て か つ ち ん か つ ち ん

三、時計の歌

一、時計は朝から、かつちん、かつちん、
 おんなじ響で動いて居れども、

ちつともおんなじ所を指さずに、

晩までかうして、かつちん、かつちん。

二、時計は晩でも、かつちん、かつちん、

我等が寢床で休んで居る間も、

ちつとも休まず、息をもつがずに、

朝までかうして、かつちん、かつちん。

うちの子ねこ

♩=104

うちの子ねこ

— ウ チ ノ コ ネ コ ハ カ ハイ イ コ ネ コ
ニ う ち の こ ね こ は か はい い こ ね こ

ク ビ ノ コ ス ズ ヲ チリチリ ナ シ
く び の こ す ず を ちりちり ならし

ス — ソ — ニ カ ラ マ — リ タモトニス ガ ル
ま — り — と ざ れ て — は えんからお ちる

五〇

うちの子ねこ

三三 うちの子ねこ

一、うちの子ねこは
かはいい子ねこ、
くびのこすずを
ちりちりならし、
すそにからまり、
たもとにすがる。

二、うちの子ねこは
かはいい子ねこ、
くびのこすずを
ちりちりならし、
すそにからまり、
たもとにすがる。

三、うちの子ねこは
かはいい子ねこ、
くびのこすずを
ちりちりならし、
すそにからまり、
たもとにすがる。

五一

雪

♩ = 92

雪

First system of musical notation on page 52, featuring a vocal line and piano accompaniment in 2/4 time.

Second system of musical notation on page 52, including vocal line and piano accompaniment.

Third system of musical notation on page 52, including vocal line and piano accompaniment.

雪

First system of musical notation on page 53, including vocal line and piano accompaniment.

Second system of musical notation on page 53, including vocal line and piano accompaniment.

二四、雪

一、雪やこんこ、霰やこんこ。
 降つては降つては、
 ずんずん積る。
 山も野原も綿帽子かぶり、
 枯木残らず花が咲く。

二、雪やこんこ、霰やこんこ。
 降つても降つても、
 まだ降りやまぬ。
 犬は喜び庭駆けまはり、
 猫は火燵でまるくなる。

梅に鶯

♩=100

梅
に
鶯

一 ヒ ノヨク アタル ニ ハサキノ
二 なくのを きいて えんかはの

カキネノウメガ サイテカラ
かごのなかでも うぐひすが

梅
に
鶯

マ イア サキテハ ウグヒスガ
かきねのほうを ながめては

カハイイコエテ ホウ ホケキヨウ
てうしを あはせて ほう ほけきよう

二五、梅に鶯

- 一、日のよくあたる庭前の
垣根の梅が咲いてから、
毎朝来ては鶯が
かはいいで
ほうほけきよう。
- 二、鳴くのを聞いて、縁側の
籠の中にも鶯が
垣根の方を眺めては、
調子を合はせて
ほうほけきよう。

母の心

♩=80

母の心

— ア サ — ハヤクカラ キ ド バ タ テ
ニ よ る — おそくまで おく の ま に

ハ ハ ハ セ イ タ ス ア ラ ヒ モ ノ
は は は せ い た す は り し ご と

タ ラ ヒ ノ ナ カ ニ ア ル ハ ナ ニ
ひ ざ の う へ に は な に か あ る

五六

母の心

コ レ ハ タ ラ ウ ノ コ ク ラ ノ ハ カ マ
こ れ は お は る の は れ ぎ の は お り

タ ラ ウ キ ノ フー ハ ウ シ ョウ ク ツ イ テ
お は る あ し た は ひ な さ ま ま つ り

ド ロ ニ ヨ ゴ シ タ コ ノ ハ カ マ
き ー せ て や り た い こ の は れ ぎ

五七

二六、母の心

一、朝早くから井戸ばたで、

母はせいだす洗ひ物。

たらひの中にあるは何。

これは太郎の小倉の袴。

太郎昨日は運動會で、

泥によごしたこの袴。

二、夜遅くまで奥の間に、

母はせい出す針仕事。

ひぎの上には何がある。

これはお春の晴着の羽織。

お春明日は雛様祭。

着せてやりたいこの晴着。

那須餘一 興

♩=88

那須餘一

First system of musical notation on page 60, including a vocal line and piano accompaniment.

Second system of musical notation on page 60, including lyrics and piano accompaniment.

Third system of musical notation on page 60, including lyrics and piano accompaniment.

六〇

那須餘一

First system of musical notation on page 61, including lyrics and piano accompaniment.

Second system of musical notation on page 61, including lyrics and piano accompaniment.

二七、那須餘一

一、源平勝負の晴の場所、

武運はこの矢に定まると、

那須餘一は一心不亂、

ねらひ定めてひようと射る。

二、扇は夕日にきらめきて

ひらひら落ちゆく波の上、

那須餘一の譽は今も、

屋島の浦に鳴りひびく。

六一

新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

不許複製

文部省

第二學年用 定價金參拾九錢

昭和七年五月二十四日 印刷
昭和七年五月二十八日 發行

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地

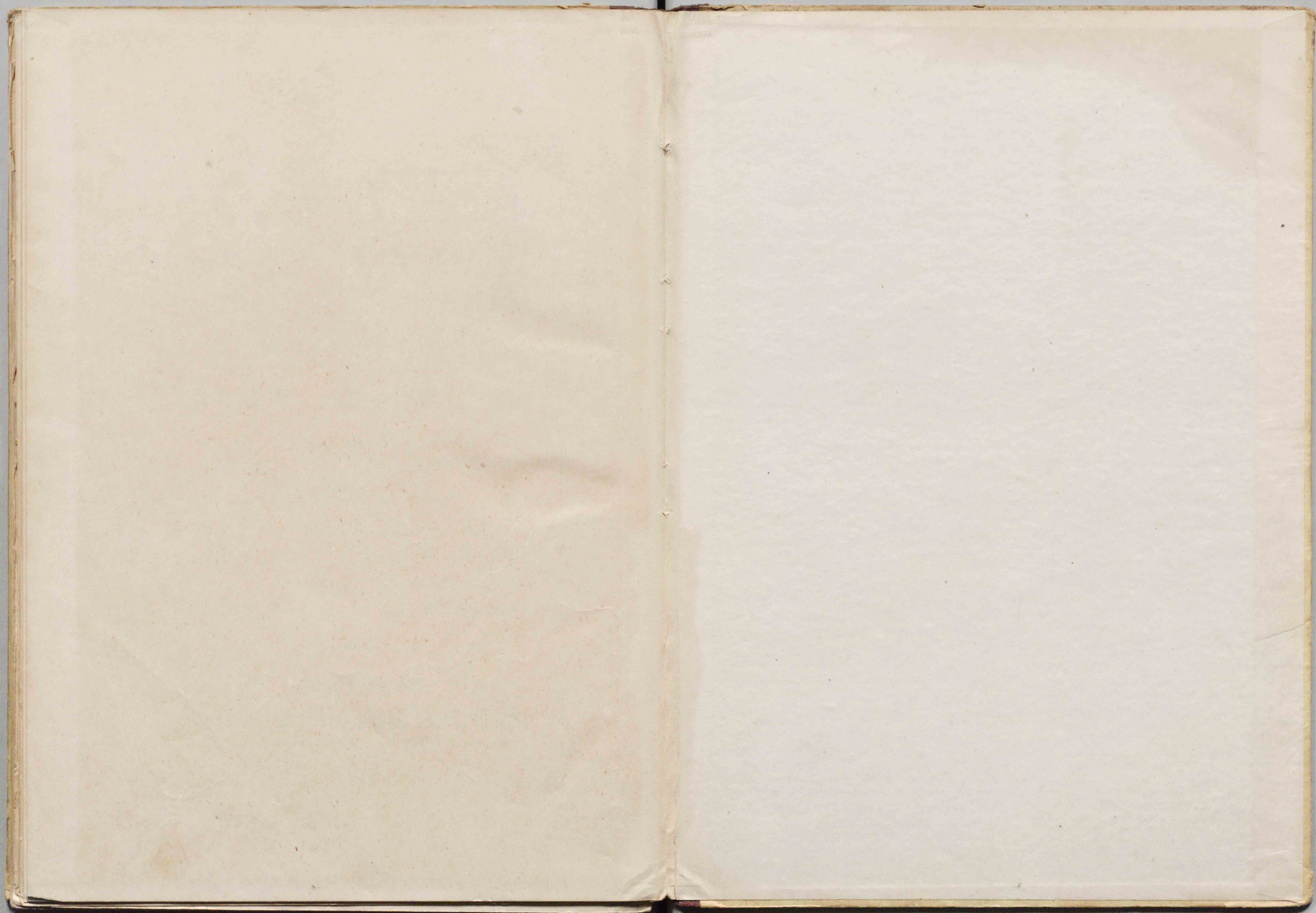
印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座(東京二一九番)電話京橋二七三番二七四番

1900.7.19



藤井鐵夫

広島大学図書

0130449421

